

令和8年7月24日

防除実施時の周辺ほ場への薬剤ドリフト防止の徹底について（お願い）

長岡地域農業振興協議会新潟米振興部会

○本年は水稻の出穂が過去になく早まり、今後も高温傾向が続くと予想されるため、収穫時期も早まると考えられます。特に「なつひめ」や、「ゆきみらい」等の極早生品種は7月上旬に出穂しており、8月前半に収穫適期を迎えると予想されます。

○8月上旬に斑点米カメムシ類や穂いもち等の防除を実施するところでは、周辺ほ場に極早生品種が作付けされている場合、それらのほ場に農薬がドリフト（飛散）すると米に農薬が残留する恐れがあります。

○このため、防除の実施の際には、農薬の適正使用の観点から、隣接ほ場の作付け品種を確認した上で、より一層のドリフト防止の徹底をお願いします。

※注意が必要なほ場の例

1. 薬剤防除を実施しようとするほ場（中晩生品種）と、周辺ほ場（極早生・早生品種）の出穂期の差が大きい場合
2. 農薬登録上の使用時期の収穫前日数が長い薬剤を使う場合
3. 穂いもち等の突発的な病害虫の発生で、計画外の追加防除を行う場合
4. 水稻に隣接する大豆ほ場を防除する場合

など

事務局担当：長岡地域振興局農林振興部普及課
TEL：0258-38-2557 FAX：0258-38-2672